

## 選手、審判を守り、スポーツの楽しさを広げるためにも 一層のギャンブル化になる「改正スポーツ振興投票法」反対

昨年12月22日、スポーツ振興くじ（いわゆるサッカーくじ・toto）の対象に、バスケットボールBリーグを追加する改正スポーツ振興投票法が成立しました。

今回の改正は、以下の点で大きな問題があり反対を表明するものです。

第一に、改正での審議内容が国のスポーツ財源の少なさには触れられず、安易にtotoの収益拡大に頼るものであり、国会でのわずかな審議や、さらに、コロナ禍のスポーツ団体の困難に陥っている中でスポーツ界に広くはかる事なく決定されたことは大きな問題です。

第二に、BリーグとJリーグに1試合での勝敗と点数を予想する“くじ”が初めて導入されることは、これまでの複数の試合を対象にした理由としてきた「当選確率を過度に上げないことによる射幸心の抑止、選手による不正行為のリスクの軽減」との説明を自ら否定するものであり、「これまでのtotoはサッカーに興味のない中高年層の男性が多かった。これからは競技を見に来る若い層をターゲットにしたい」と、若者向けのギャンブルを目指していることは重大です。

現在、当せん率は約160万分の1～約1680万分の1です。予想をコンピュータに任せるなど宝くじにちかいものですが、単一試合への賭けとなると性格が全く違ってきます。当選確率が16分の1～19分の1と格段に当たりやすくなることを見ても、その点は明らかです。

第三に、BリーグとJリーグに1試合での勝敗と点数を予想する“くじ”が導入されることは、選手やレフェリーの八百長リスクを高めるだけでなく、ネット上での誹謗・中傷にさらされることも懸念されます。この点は、審議の中でも指摘されていることでした。2015年巨人の選手が野球賭博に関与して処分されましたが、こうした事態が再発するようなことがあってはなりません。

海外でも、2015年の韓国のスポーツ界では、バスケットボール11名、柔道12名、レスリング1名の計24名の現役・引退選手が違法賭博に関わり八百長行為に手を染めた疑いで検挙され、また、アメリカNBAでは審判がスポーツ賭博に手を染め、自らが笛をふいた試合に賭け、試合を操作したことが報道されました。

新日本スポーツ連盟は、フェアプレー精神を育み、スポーツの楽しさを広げる取り組みを行っており、スポーツ振興くじ（サッカーくじ・toto）には、その論議の段階から強く反対してきました。スポーツ文化を貶め、一層のギャンブル化となる今回の改正に反対を表明するものです。

2021年1月8日

新日本スポーツ連盟理事会